

令和4年度 呉羽高等学校アクションプラン - 1 -

重 点 項 目	学習活動（学習指導の充実）	
重 点 課 題	家庭学習の充実と教科指導の充実	
現 状	①本校生徒の進学志望達成のためには、日々の授業を大切にし、生徒が計画性をもって自発的に学習に取り組むことが必要であるが、各学年の目標とする家庭学習時間は確保されていない現状である。生徒の実態把握に努め、生徒が主体的にかつ具体的に学習計画を立てて実践できるようになるための指導が必要である。 ②「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業の改善について、互見授業を活用し、各教科部会を中心に研修している。互いの授業を参観する機会は増えているが、ICTの効果的な利用も含め、指導内容や指導方法についてさらなる授業研究が必要である。	
達 成 目 標	①生徒の平日家庭学習時間 1年生 2.0時間以上 2年生 2.5時間以上 3年生 3.0時間以上 ※学習実態調査より の生徒の割合	②互見授業に積極的に参加し、教科部会等で意見交換をする。
	① 70%以上	②各自、互見授業に年間2回以上参加
方 策	・学習実態調査、日々の授業や面接を通して生徒の学習状況を把握するとともに、生徒に主体的に学習する習慣を身につけさせ、学習内容の充実を図る。 ・学習実態調査の結果から家庭学習の内容や取り組みの実態を把握・分析し、家庭学習の充実につなげる。 ・確実な基礎学力を付けるために、授業を中心とした学習習慣を確立し、予習・復習を主とした家庭学習を充実させる。 ・個人面接を通して、生徒一人ひとりに合った学習内容の充実と学習時間増加推進に取り組ませ、進路目標の達成を図る。	・互見授業週間を設定し、様々な授業を見学できるように、教科の枠を外して実施する。 ・互見授業後の振り返りや、学校外で行われる研修会や公開授業への参加報告など、授業改善のための校内研修を実施する。 ・ICTの授業への活用については、その長所・短所を把握し、さらに効果的な利用法について、研究を進める。 ・教育クラウドを利活用した教育活動の推進を図る。
達 成 度	①1年：1学期：42.9 % 2学期：34.4 % 2年：1学期：29.6 % 2学期：35.7 % 3年：1学期：17.1 % 2学期：65.1 % ② 約75%	
具 体 的 な 取 組 状 況	① 学習実態調査、面接、質問教室などを活用し、各学年が生徒の学習に対する意識の高揚を図っている。 ② 互見授業期間中の授業見学については、1学期、2学期合わせて 3/4 の教員が参加し、教科ごとに授業の研究を行った。	
評 価	C B	① 3学年の2学期では、目標に近い割合となっはいるが、どの学年でも目標を達成できなかった。3年では目標には届かなかったが、1学期から2学期にかけて大きく増加した。1・2年の後半で身についた学習習慣を進級後も継続させたい。 ② 新学習指導要領の本格実施にともない、各教科で観点別学習状況の評価の具体的な推進を含めた授業研究がなされた。
学校評議員の 意 見	・家庭学習は時間の長さよりも質。効率の良い学習方法について指導をお願いする。 ・家庭学習の充実には進路目標の明確化が不可欠。強い目的意識と動機づけがあれば、自ずと家庭学習に取り組む姿勢も変わる。	
次年度に 向けての課題	進路を意識した主体的な家庭学習の定着、新学習指導要領に基づいた授業改善、目的意識をしっかりと持たせるような指導の充実を目指したい。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和4年度 呉羽高等学校アクションプラン - 2 -		
重点項目	学校生活（生徒指導）	
重点課題	① 「挨拶」を自主的に行い、自覚を持って「服装」を正しく着用する生徒の育成。 ② スマートフォン・携帯電話について、節度のある使用が自主的にできる生徒の育成。	
現状	①ここ数年、継続して「挨拶」と「服装」に重点を置いて指導してきた結果、生徒たちの挨拶は少しずつよくなっており、服装についても全体に落ち着き、よい傾向にある。ただし、この状態をさらに高めていく意識がなければ、せっかく醸成されてきた校風を崩してしまう恐れがある。 ②富山県高等学校PTA 連合会では、イレブン・セブン運動（夜11時から翌朝7時までスマートフォン等を使用しない運動）を展開している。本校でも新入生に案内を配布し、廊下にポスターを貼り、全校集会で指導している。全国的統計では1日(平日)のスマートフォン等の平均使用時間は時代の流れで年度毎に少しずつ増えている。twitterやLINEなどのコミュニケーションツールの進歩より、夜遅くまでスマホを手放せない生徒が多い。	
達成目標	①生徒の自己評価について〈5：いつもきちんとできる、4：だいたいいつもできる〉の割合。 ・【挨拶】「授業」80%以上、 「校内」80%以上 ・【服装】85%以上	②夜11時までにはスマホの使用を止めることについて（4：止めている、3：ほぼ止めている）の割合。 50%以上
方策	・朝、生徒指導部を中心に、生徒玄関で生徒に挨拶をする。 ・職員会議や生徒議会などを通して、挨拶のできる呉高生の意識を共有する。 ・授業の始まりや終わりの挨拶をきちんと行う。 ・校紀委員会で標語を募集し、さわやか運動に積極的に参加するよう促す。また、生徒会や校紀委員会などで話し合いを行い、生徒自身による規範意識の高揚を図る。 ・各学期の始めと中頃に2回、各学年で一斉服装頭髪指導を行い、落ち着いた学習環境を維持することに努める。 ・必要に応じて、個々の生徒の状況に応じた個別指導を担任と連携して行う。	・全校集会でイレブン・セブン運動を周知徹底し、スマートフォン利用にはルールが必要であることを説き、自主的に節度ある使用を心がけさせる。 ・生徒のスマートフォン使用状況について調査を行う。調査の結果を生徒に伝達し、自分たちの使用実態について自覚させるとともに、HR活動で結果について話し合う機会を持ち、改善点や改善方法について自分たちで考えさせる。 ・1年生に「スマホケータイ安全教室」を実施し、SNS使用の危険性について、専門家の講話を通して指導する。 ・校紀委員会で学校ネットルールづくりを行い、ルールの必要性を啓蒙する。 ・教科「情報」の教員と協力し、情報モラルやセキュリティの意識の向上を図る。
達成度	挨拶の自己評価 授業78%・校内84%(1期) 授業80%・校内84%(2期) 服装の自己評価 78% (1期) 、88%(2期)	1年 45%(1期)、40%(2期) 2年 33%(1期)、31%(2期) 3年 23%(1期)、33%(2期)
具体的な取組状況	・各学期初めの1週間を挨拶・マナーアップ習慣とし、全教職員で指導に当たった。また、始業式後に各学年で頭髪指導を実施した。 ・継続的な指導を重視し、毎朝、登校時に生徒指導部員が生徒玄関前に立つことにした。挨拶の声掛けをし、制服を着崩している者に対してはその場で直すように注意を促した。	・全校集会でスマートフォン利用にはルールの必要性があることを説き、自主的に節度ある使用を心がけるよう指導した。 ・校紀委員会で、スマートフォンの使用について生徒たちが話し合う機会を設けた。校紀委員が作成したポスターを掲示し、自己管理と規定の遵守を呼びかけた。
評価	① A ② D	①挨拶・服装ともに昨年より自己評価が高く、目標を上回った。登校時、継続的に挨拶の声掛けと服装指導を行ったことが効果的であったと思われる。 ②スマートフォンの使用は学校外でのことで、継続的な指導が難しい。生徒が主体的に管理できる態度を育成することが重要であり、また、保護者の協力が必要であろう。
学校評議員意見	スマートフォンの使用については、イレブン・セブン運動にとらわれず、各自で使用時間等を管理するような指導がよいのではないかと。挨拶、服装、スマートフォンは学校のみならず、保護者の責任のもと指導すべきである。	
次年度に向けての課題	生徒が主体的に自己管理できる態度を育成する。特にスマートフォンの使用については、生徒自身が自己を見つめ直し、生徒同士さらには保護者を交えて使い方を考えるような指導場面を設ける。	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和4年度 呉羽高等学校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援（進路指導の充実）
重点課題	進路意識を高め、進路目標の実現に向けて学力を向上させる。
現 状	・進路目標が漠然としているために、受動的な学習に終始する生徒が多い。 ・自己の能力や適性を的確に評価しようとする意識を高め、主体的かつ持続的に考えながら進路目標を設定し、その実現に向けて努力していけるよう、継続的に支援していく方策を工夫する必要がある。 ・目標の設定や実現のための方策を示し、学期や学年の進捗とともに進路意識を熟成させられるような支援システムを構築し、教員間で共有していく必要がある。
達成目標	・第1学年：文理選択・科目選択を、十分検討した上で決めることができる。 ・第2学年：具体的な進路目標を、十分検討した上で定めることができる。 ・第3学年：受験計画を、十分検討した上で立てることができる。 1年生：80%以上 2年生：80%以上 3年生：80%以上
方 策	○3年間を通した計画的な進路指導を行い、生徒・学校・家庭が一体となり、進路志望の実現を図る。 ・第1学年…生活習慣や学習習慣を確立させる。「総合的な探究の時間」等で進路研究や興味関心に応じた探究活動を行い、自己理解や適性の把握に努めさせる。また、適切な文理選択を支援するため、漠然とした進路希望を持つ生徒や、進路選択に悩む生徒が自己の適性を知り、自分の将来について主体的に考えられるような機会を設ける。「大学招請講義」では興味関心のある講義を受講させ、学部・学科の内容についての理解を深めさせる。 ・第2学年…大学見学等を通して大学や学部について研究し、自己の適性をふまえた具体的な進路目標が掲げられるよう指導する。「大学招請講義」では興味関心のある講義を実際に受講し、学部・学科選択の一助とさせる。また、「合格体験報告会」では先輩達の進路への心構えや学習法などを実際に聞き、新年度に向けて学習への意欲を高めさせる。 ・第3学年…学年集会や外部講師による進路講演会等を開催し、進路志望実現のための具体的な方策や進路に関する情報を的確に示し、意欲を高めさせる。ゴールを見据えた長期・中期・短期の学習計画を作成させ、その進捗状況を検証し、学力を最大限に伸長させる。 ○個人面接やホームルーム等を通して、学習習慣や生活習慣の見直しをさせるとともに、早期に志望校を明確化できるようオープンキャンパスや学校説明会への参加を勧める。 ○校内模試や外部模試を有効に活用し、結果を学年会や進路検討会で分析しながら教員間で情報を共有し、授業や個別指導（教科添削・小論文・面接）に活かす。 ○入試動向を調査し、それらをもとに本人の適性や成績・意欲などを総合的に勘案し、適切な志望校選択を支援する。
達成度	《達成目標アンケート（1月実施）》（単位% 小数第2位四捨五入） ①十分にできた ②だいたいできた ③あまりできなかった ④全くできなかった 1年生… ①68.9 ②29.2 ③1.4 ④0.5 ①②合計…98.1 2年生… ①22.0 ②57.9 ③16.7 ④3.3 ①②合計…79.9 3年生… ①28.6 ②55.7 ③14.8 ④1.0 ①②合計…84.3
具体的な 取組状況	・総合的な探究の時間…（1学年）学問研究・職業研究を計画的に進め、担任面接等で個々の意志を確認しながら、主体的な文理選択をサポートした。（1・2学年）興味・関心に応じたテーマ研究を実施中。 ・インターンシップ…（1・2学年）企業・大学へのバスツアーを実施。（全学年）県内の諸団体や大学・企業・医療現場等へのインターンシップへの参加を促した。 ・招請講義…（1・2学年）県内を中心とした大学から講師を招聘。関心や志望等に応じた、より専門的な学問に触れることで志望分野への興味・関心を高めさせ、進路目標の明確化を促す機会とした。 ・進路講演会・小論文講座・学年集会・HR等…（全学年）校内テストや外部模試の振り返り、学習実態調査での現状把握等をもとに、改善点を考えさせた。志望大学の研究内容・入試科目・配点等、入試制度の理解を深めさせ、進路目標の具体化・明確化に向けての意欲を喚起した。
評 価	B 各学年の達成目標は学校全体で認識されており、その達成に向けての努力がなされていた。
学校評議員の 意見	・保育所との交流を、実施方法・参加人数を見直し、再開してもらいたい。 ・進路意識を高めるとともに、その都度変化していく生徒の将来像にも寄り添う指導をしてもらいたい。
次年度に向け ての意見	・招請講義・インターンシップを充実させたい。 ・達成目標を教職員・生徒の共通認識とし、その実現を目指したい。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和4年度 呉羽高等学校アクションプラン - 4 -

重点項目	特別活動（学校行事の周知と委員会活動の活性化）	
重点課題	・学校行事の広報活動を充実させ、各行事の活動内容を学校内外に発信するために、生徒会が中心となり、生徒や教職員との協力・連携を強める。 ・各行事や各種委員会活動への積極的な参加を促すと共に、活動内容を工夫し活性化を図る。	
現状	・学校行事では生徒会が中心的な役割を果たし計画・運営をしている。しかし、一般生徒や教職員にはその活動内容が十分には知られていない。そこで、広報活動のみならず話し合いの場を積極的に設けることによって、生徒の主体的な活動を学校内外に知らせ、地域と学校、生徒と教職員が連携する活気溢れる行事を運営できるのではないかと考える。また、生徒に責任と自覚を持たせることによって、興味・関心をより高め、主体的な活動に繋がれると考える。 ・生徒会には現在8つの委員会が設置され、執行部が中心となって学校行事や各種委員会の様々な活動を計画・運営している。また、各ホームにおいても役員、各委員が企画する活動があり、主体的に取り組んでいる。しかし、慣例的な活動の中にはあまり関心が高くないように感じられるものもあり、今後、社会の状況に合わせつつも、より積極的な参加や自主的な行動を促す工夫した取り組みが必要であると考え。	
達成目標	①学校行事の定期的な広報活動	②学校行事や生徒会、HR活動に意欲的に取り組み、充足感を得させる
方策	・「生徒会だより」 毎月発行 (学校行事だけでなく、各委員会や生徒会活動の活動報告や告知を分かりやすく記載し、内容を充実させる) ・掲示板 多くの生徒の目にふれるよう創意工夫を凝らした内容に努める。 ・HPの定期的な更新	・参加意識を高めるために具体的な計画を立て、生徒議会や生徒総会を通して生徒主体の形で共通理解を図る。 ・HR活動に話し合いやグループワーク、学年統一活動などを建設的に取り入れ、生徒の自主性を生かした運営を重視し、指導する。
達成度	・「生徒会だより」は月末を目安に全生徒に毎月発行し【1学年：55% 2学年：52% 3学年：48%】が、「たまに読む」を含め生徒会だよりに目を通していると回答している。 ・HPは、近日中に更新するようにしている。	・HR役員、委員会活動に積極的に取り組んだ生徒の割合（*やや積極的を含む） 1年 R2：89% →R3：97% →R4：94% 2年 R2：90% →R3：97% →R4：94% 3年 R2：83% →R3：94% →R4：94%
具体的な取組状況	・学校行事だけではなく、各部活動の活動内容や生徒会が中心となって行ったアンケートの結果報告を生徒会だよりだけではなく掲示板を通して適宜行った。（情報の共有） ・各種委員会では、生徒議会での代議員からの意見や公約を基に委員長を中心に様々な活動を実施し、生徒会だよりやHPにも掲載して周知した。（スマホ使用についての呼びかけ、あいさつ運動など）	全学年で9割を超えてはいるが、満足度は若干減少した。生徒の傾向としては部活動の退部率も高いことから、協働する経験が浅く、人と適切な関係を保って積極的に活動する意欲に欠ける生徒像が浮かび上がってきている。 ・学年統一活動や話し合い活動が、臨時休校や日程の都合により、今年度も思うように行えなかった。身近な問題点について考える活動を、次年度は計画的に取り入れていきたい。
評価	・A 全校生徒をも巻き込んだ活動の進捗状況を周知できるよう努めている。	・B 本来のよりよい学校生活に向けての合意形成の場として機能し切れていない。
学校評議員意見	限られた時間の中で、よく活動している。	高校時の経験が社会人になった時に大切である。もっと実りある活動をしてほしい。
次年度に向けての課題	生徒会活動にマンネリ化が見られるようになってきた。担当教諭や各種担当生徒が代わっても活動の質を継続して行っていけるようにしたい。	生徒主体の魅力ある活動になるよう教職員間で情報を共有し、生徒との関わりを大事にして、学校行事や部活動を支援していく必要がある。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和4年度 呉羽高等学校アクションプラン - 5 -

重点項目	特別活動（図書館活動の充実）	
重点課題	- 読書指導を通して生徒の自主的な読書活動を推進し、豊かな知性と感性を育む。 「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能の強化を図り、生徒の利用を促進する。 - 本校の特色にあわせた蔵書、資料の構成を目指した図書館運営を目指す。	
現 状	- 読書傾向調査によると、読書が「好き・どちらかといえば好き」な生徒は75%程度いるものの、1週間の読書時間が0分と答える生徒が44%を占める。読書をしない理由として、「読書の習慣がない」「勉強・部活等で時間がない」をあげており、すきま時間を利用して読書をする習慣が身につけていない。 - 図書館を年10回以上利用する生徒の割合が8%程度であるが、40回以上利用している生徒もおり利用状況に個人差がある。日常的に図書館を利用し、図書資料を適切に活用する態度が求められる。 - スマホやパソコン等を用いた電子書籍利用者は21%であり、電子書籍が読書の形態として浸透してきている。 - 読書活動の利用に加え、教室以外の居場所として授業中の図書館の利用が増加している。 ※数値はR3.1実施「読書傾向調査」（1・2年対象）による	
達成目標	①図書館だより、新着図書案内の発行回数 年10回	②1ヶ月平均の図書館入館者数（延べ人数） 550人以上
方 策	「図書館だより」「新着図書案内」をそれぞれ年10回程度発行し、情報発信を定期的に行うことにより、利用の促進を図る。 「社会を知るための読書」をテーマとして1・2学年を対象に「読書の時間」を実施し、新書を読む機会とする。 1・2学年を対象に「ホームルーム読書会」でビブリオバトルを実施し、生徒自身が選んだ本の良さを聞き手に伝える工夫をすることで読書への関心を高める。 - 全学年を対象に「小論文対策図書案内」を作成し、進路対策の支援を図る。 - 読書感想文・感想画コンクールを実施する。 - 図書委員会で「テーマ展示」「教養講座」や「図書館フェア」を企画・実施し、調査研究の成果や関連する図書を紹介する。 - 図書委員会で本紹介POPの作成、展示を行い、読書の楽しさが体験できる機会を設定する。 - 新着図書やテーマ展示の関連図書の展示方法を工夫する。	- 読書や探究活動等多様な活動に応えるために蔵書の充実と資料収集に努め、生徒の自主的な読書活動を推進する。 - 進路や職業選択に役立つ図書資料の充実に努める。 - 各教科・学年・各分掌・部活動との連携を強化し、積極的な図書館の利用を推進する。 - 教科学習や「総合的な探究の時間」における図書館の計画的利用の促進とレファレンスサービスを充実させる。 - 図書委員会による各行事において様々な図書を工夫して紹介することにより、図書館利用への関心・理解を深める。 - 配架を工夫するなど環境整備に努め、居心地のよい図書館とする。 - 新聞、雑誌、視聴覚資料等図書以外の資料に触れる機会を持てるように環境を整備する。 - 音楽等芸術関係の豊富な資料のPRに努め、活用の促進を図る。 - 新入生を対象として「図書館オリエンテーション」を実施し、図書館利用の方法や図書資料の探し方について把握させる。
達成度	① 図書館だより10回、新着図書案内10回（見込み）	② 570人（1月10日現在）
具体的な取り組み状況	- 月刊図書館だより「Library」や掲示物で、図書委員や教職員のおすすめの本を紹介して、本への親しみやすさを感じられるようにしている。 - 新着図書は目にとまりやすいように館内入口に展示し、スライドショーでも情報提供をしている。 1・2年生は、1・2学期の朝読書や読書の時間では、社会を知ることのねらいとして、生徒にさまざまなジャンルの新書50冊を推薦し、各自関心をもった一冊を選択して読み、読後は記録にとどめている。 3学期ホームルームでは、図書委員の運営でビブリオバトルに取り組んでいる。生徒間でおすすめの本をプレゼンし合い、読書体験を分かち合う場となっている。 - 毎年の読書傾向調査により、本校生の読書傾向の把握に努め、効果的な読書指導と図書館経営に役立てている。 - 年刊図書館誌「わかやば」では、校内読書感想文・感想画コンクールの受賞作や、図書委員会の活動を紹介し、さまざまな図書館活動を記録に残している。	4月、新入生オリエンテーションでは、図書館の利用の仕方をガイダンスし、安心して利用できる雰囲気を感じさせている。 7月、図書委員会主催の教養講座では、日ごろ接することの少ない話題をテーマに解説や資料を見聞きし、新しい視点を持つことができた。館内には関連図書を紹介し、講座の内容をより深められるようにしている。 10月、全国読書週間にあわせて催す「図書館フェア」では、図書委員による探究的な活動の発表展示、ポスターセッション、絵本の読み聞かせや寸劇、クイズラリーなど、楽しい図書館を発信している。 - 芸術や進路の資料や専門図書をはじめ、生徒と教職員のニーズに応じた蔵書の充実に計画的に進めている。図書委員は店頭選書を通して、配架やポップの利用方法を見聞きし、魅力的な図書館づくりの参考にしている。 - Wi-Fi環境が整い、図書館でのICTを活用した、教科や総合的な探究の時間の授業の在り方を模索している。
評 価	① A：生徒が安心して利用できる図書館づくりを、計画的に推し進めることができた。 ② B：社会情勢に即応して、読書や学習活動、教育活動全般における図書館の機能の可能性を模索し続けることが必須である。	
学校評議員の意見	- 生徒間だけではなく、保護者、教職員とも相互に読書体験を分かち合うこともできる。 - 今後は電子書籍を導入、活用してはどうか。	
次年度に向けての課題	生徒一人ひとりの読書活動を幅広く支援できるような、教職員のスキルアップと環境整備を引き続き推進する。	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和4年度 呉羽高等学校アクションプラン - 6 -

重点項目	その他（保護者・生徒・教職員・地域との連携、校内美化により学習環境を快適に保つ）		
重点課題	- 本校教育活動とPTA活動の連携を図るとともに、地域の声を聞き開かれた学校づくりに努める。 - 魅力ある本校の教育活動を、様々な方にアピールできるよう、様々な媒体を用い広報する。 - 校内美化に取り組み、健康的で快適な学習環境を保つことで生徒の学習や学校生活に対するモチベーションを向上させる。また、学校全体で協力して清掃活動に取り組み、生徒同士の助け合いや協働の精神を持たせる。		
現 状	- 学校と保護者との関係は良好であるが、コロナ禍で行事の開催や持ち方に制限があり、保護者が参加できていない。 - SPTA懇談会は年2回開催しているが、呉高芸術祭の食堂運営については2年間行っておらず、懇談できていない。生徒の生活実態等については、生徒・保護者・教職員が意見交換を行う有意義な機会となっている。 - ホームページへの行事の掲載率は7割程度で、掲載が遅れたり、更新が滞っているものもある。保護者や中学生、地域の方から迅速かつ頻繁な更新を望む声が聞かれる。 1週間に3日は7限授業後清掃時間（16時10分～16時30分）が設定され、その後部活動を行う校時となっているため、生徒は時間に追われ環境美化に十分にに取り組むことができていない。		
達成目標	①PTA行事の集合型での開催。学校行事への保護者の来校やそれに対する満足度の向上	②学校行事等のHPへの掲載を、概ね2週間以内に行い、タイムリーな広報に努める。また、HPや紙面での案内以外の方法も用いて、教育活動を紹介する。	③学期に2度の大掃除を計画し、実施する。
	・開催時の満足度調査で4以上（5段階評価）	- 学校行事の概ね2週間以内の更新率80%以上 - 現存の方法以外での広報活動の実施	大掃除の実施率80%以上
方 策	- PTA活動のパンフレットやホームページを通して各行事の様子を知らせる。 - コロナ禍ではあるが、保護者の行事への参加を工夫して行う。 - 参加した保護者を対象にアンケートを実施し、満足度を調査する。	- 学校行事の担当者へ事前事後の更新を促す。 - 写真データの収集方法を工夫し、記事作成にかかる時間を短縮する。 - 動画発信など新たな方法での広報や、案内誌・HPと動画をリンクさせる。	校内美化の活動を生徒全員で協力して行うことができるよう美化委員が啓発活動を行う。また、快適な校内環境を保つため、毎日取り組む校内美化活動以外の日常での整理・整頓や、清掃では手が回らない場所、時間の経過とともに汚れが蓄積する場所の清掃を随時計画し実施する。
達成度	- 行事の様子を知らせる ＝ほぼ100% - 保護者の行事への参加 ＝ほぼ100% - PTA総会の満足度＝71%	- HPへの行事の事前事後の掲載＝ほぼ100% - 新たな広報＝一部達成	89%
具体的な取組状況	- 事前申請や各家庭1名までと制限はあるが、計画通り保護者参加予定のものをおこなうことができた。 - PTA総会のアンケートでは71%の方が良いと評価	- 原稿作成や回覧にスピード感があり、前年より実施した行事も多く、掲載は良い方向である。 - 音楽コースの案内にQRコードを付け、動画配信にリンクした。	大雪のため終業式等を取りやめたため12月は大掃除を実施できなかったがその他の月は美化委員が中心となり実施することができた。
評 価	B	A	A
学校評議員の意見	- ホームページを充実が、呉羽高校に興味・関心を持つ中学生の増加につながる。 - 呉羽高校は先生方の指導力とともに、生徒の潜在能力の高さがある。今後も、先生方にはその指導力を持って、学習、部活動、生徒会、委員会活動を通じて、生徒の長所、魅力の一つでも多く見出し、可能性を広げてほしい。 - 生徒を主体としつつ、SPTA懇談会のように、生徒会・委員会への参画ができればと思う。新たなPTA活動の模索が必要だ。 - 美化活動で、学校周辺(校外)での活動もあれば地域貢献につながると思う。		
次年度に向けての課題	- ホームページのより一層の充実を目指し、学校行事への保護者の参加や関わりを増やす努力が必要。 - PTA活動の内容やあり方の改善。家庭と学校の連携の取り方の改善。 - 美化委員、生徒会、ボランティア委員が連携し、地域の活動に参加する機会を模索する。		

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）